

私の家は米農家

新見市立野馳小学校

五年 難波陽菜

私の家は米農家です。

先祖代々、うけついで田んぼで米づくりをしています。おじいちゃんと、おばあちゃんと、お父さんとで田んぼを守っています。

「今年は、苗の種まきからする。」

とおじいちゃんが言っていたので、私も手伝いをすることにしました。

苗箱にシートを敷いて機械に入れる作業をしました。作業をしている時、お父さんやおじいちゃんを見ると、家にいる時よりなんだかっこよく見えました。お父さんは汚れた作業着を着ていて、いつもよりダサイ服なのに、なんだか一生けん命でキラキラして見えました。

おじいちゃんは、みんなに指示を出して機械を動かして、家にいる時より難しい顔をしていました。機械を動かしているおじいちゃんは、どこかのエンジンアのような顔をしていました。家でのおじいちゃんは、おもしろくて、ダンスをおどったり、冗談を言ったりしているので、まるで別人のようでした。おばあちゃんやお母さんも、おじいちゃんの指示でせつせと動いていました。

私のおばあちゃんは、家でもせつせと動いている働き者のおばあちゃんです。お母さんが仕事の時は、私や妹の面倒を見てくれています。みんなのごはんの準備や庭の草取り、家の掃除に洗たく、そして、農作業。とてもパワフルなおばあちゃんです。

お母さんは、いつも仕事でつかれているのに私たちと遊んでくれます。作ってくれるごはんがとてもおいしいです。とってもおもしろくてツツコミ上手です。私のボケに必ずツツコミを入れてくれます。そんなおもしろいお母さんも今日は、真面目に作業に取り組んでいました。

おばあちゃんとお母さんが苗箱を私の前に持ってくる。私が機械に苗箱をセットする。苗箱に土が入り、種が入り、流れていくのをきびしい目でチェックするおじいちゃん。最後に、できた苗箱を並べたり、フォークリフトで運んだりするお父さん。まるで私の家族がみんなひとつの会社で働く社員のようでした。私もこの会社の一員になれるように一生けん命作業をしました。作業が終わった後、家族のみんなが、

「ひなちゃんありがとう。」

「ようがんばったなあ。」

と声をかけてくれてうれしかったです。そして、家族とひとつの作業を一生けん命やって達成感を感じました。

これからまだ、米ができるまでいろいろな作業があります。私も家族の一員として手伝いたいのです。その時は、また家族のプロの顔を見られるのが楽しみです。